第６学年　総合的な学習の時間　学習指導案

草津市立笠縫東小学校　教諭　林　雅也

１．単元名　　「災害から命を守る　～学ぼう・備えよう・動こう～」

２．単元の目標

- 自然災害から生き延びるために必要な物品・行動など防災上の知識について理解し、保護者や地域の方、他学年児童に伝わるようにポスターにまとめることができる。（知識及び技能）
- 自然災害の状況下で、自分や身の回りの人の命を守るために何をどうすることが必要か、課題を明らかにし、有事の際に保護者や地域の方が安心して避難所生活を過ごすためにできることを考えたり、考えたことを体験コーナーや学習発表コーナーを通じて伝えたりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- 災害を自分事として捉え、自分と地域とのつながりを意識しながら自分ができる防災について考え、意欲的に地域の方に関わったり、防災・減災について学んだことをポスターやタブレットにまとめたりすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

３．単元について

（１）教材観

本校は、ＪＲ草津駅の北側に近接し、幹線道路が整備された交通至便な住宅地と緑豊かな田園が広がる地域で、学校北側を東西に流れる一級河川葉山川は四季折々の美しさをもち、児童をはじめ、地域の方にとって馴染みのあるものとなっている。笠縫東学区洪水・内水ハザードマップでは、校区に浸水深５ｍを越える恐れがある地域をはじめ、アンダーパスを通学路としている地域もある。また、「琵琶湖西岸断層帯による地震」や「南海トラフ大地震」が発生すれば草津市全域は最大震度６強以上が想定され、市域各所における液状化が危惧されている。そこで、自然災害における集中豪雨を起因とした河川の氾濫または地震を想定した減災・防災教育を通じて、自助・共助の大切さを理解するとともに有事の際に適切な行動をとれるように備える必要があると考える。

本単元では、身の回りにあるもので紙食器や紙スリッパ、雨具、防寒具等を作る体験や避難時の安全確認についての話、防災備蓄倉庫に関する説明や段ボールベッド・避難所簡易トイレの組み立て体験、そして被災者支援に従事された自衛隊の方の話を教材として取り上げる。学区ハザードマップを資料として活用するだけでなく、草津市危機管理課の方から学校敷地内に設置されている防災備蓄倉庫内の食材・道具等を実際に見る、触る、活用するといった体験を通じて災害を身近に感じ、自分事として活動への意欲が高まることを期待する。有事の際に自分たちにできることは何かという問いから、学んだり考えたりした事柄から解決の方法を見出し、地域の方、保護者、他学年児童に発信する活動は、問題の解決に向けて児童が主体的に取り組むことができる学習活動であり、地域の一員として防災・減災に向き合う主体者となり得るものと考える。

（２）児童観

本学年の児童は、第５学年においてＥＳＤプログラム「Ｉ　ＬＯＶＥ　葉山川プロジェクト」に取り組んだ。愛着ある葉山川ではあるが、児童や地域住民にとって川に下りる階段がなく、普段近づくことが難しいことから「（より一層身近に感じてもらうために）自分たちでできることはないだろうか」という問いをもち、学んだことを生かして「川に階段を設置できないか」という解決手段を見出した。そして地域の方や保護者の意見を取り入れながら河川を管理する県職員に「階段を造れば安全に川の近くに行くことができます」「環境保全につながります」など思いを伝えて要望書を提出し、階段設置を実現することができた学年である。学校のみならず草津市や滋賀県に協力を依頼して願いを実現することができた経験は、様々な活動に対する主体的な姿勢を育むことに

つながった。しかし、葉山川に階段が設置されたものの階段に手すりを備え付けることや川際にベンチを設置することは防災・安全の観点から実現できなかったことに対して「なぜ」「どうすれば」という新たな問いをもつまでには至らず、自然災害に対する関心の低さが窺えた。また、本校が広域避難所に指定されていることを理解していても「大人が準備してくれる」と主体性に欠けた考えも少なくない様子であった。

そこで防災・減災教育を通じて、児童が「なんとかしたい」「自分たちならできる！」と心動く問いと出合い、主体性を育みながら災害に対する知識、技能を習得することに大きな意義があると考える。

（３）指導観

単元の導入では、昨年度実現した「葉山川階段設置」における手すり・ベンチが、防災・安全上設置できなかったことに触れ、集中豪雨による洪水・河川の氾濫の恐ろしさを学んでいく。災害時の安全面を検討していく上で、階段の在り方を追究していくこともさることながら、笠縫東学区の広域避難所に指定されている本校は有事の際に機能することができるのだろうかという問いに目を向け、地域の一員として災害を自分事に捉える機会を設定する。そして県内企業の協力のもと、代用品の作り方や避難時の安全確認について学び、有事の際に大人がそばに居なくてもできることがあることに気付き、共助するためには自分たちだけでなく地域の方も一緒になって支え合う必要があることを「発信していきたい」という思いにつなげていきたい。

そして、避難所生活に焦点を当て、地域の方が安心して避難所で生活するために自分たちにできることは何かという問いと向き合っていく。草津市危機管理課の方から、段ボールベッドや簡易トイレの組み立て体験・防災備蓄倉庫内の道具に触れる体験、自衛隊（自衛隊滋賀地方協力本部草津地域事務所）の方から、荷物運びの時に両手が空くように工夫されたロープワーク・身近にあるもので負傷者を運ぶ体験・能登半島地震災害派遣時の苦労や被災者の困り感、避難所での工夫についての体験談講話を通じて、自分にできることについて考えをまとめていく。さらに、自分たちが学んだことをポスターやタブレットでまとめ、東まつり（日曜授業日）にて地域の方、保護者、他学年児童に発信することにより、さらに深く考え、災害に対して主体的に向き合う児童を育てていきたい。

東まつりにおける児童の発信・提案は地域に対する貢献ではあるもののゴールではない。引き続き地域の発展を願い、地域の様々な課題に対して自分の考えをもち、仲間と共に地域の一員として解決を目指して主体的に活動する姿を期待している。

（４）ＥＳＤとの関連

・本学習で働かせるＥＳＤの視点（見方・考え方）

責任性…災害はいつどこで起こるか分からず、有事の際に「自分がしなくても誰かが…」と災害を他人事と片付ける無関心さが危惧される。災害に対する日常的な備えや考えをもち、災害を自分事として捉えて関わっていかなければならない。

公平性…災害は自分たちだけが助かればよいということではなく、地域の様々な年齢層の方も助からなければならない。また、防災備蓄倉庫にある物品にも限りがあり、よりよい避難所生活について地域の方と協力して活動していかなければならない。

連携性…災害に対して自分にできることを考え、家族、地域の方に発信していくことは、地域全体で防災・減災につながる。

・本学習を通して育てたいＥＳＤの資質・能力

「自分たちにできることは何か」を自問し、行動にうつす力（クリティカル・シンキング）

有事の際に必要な物品・行動について考えたり、自助だけでなく共助の大切さについて発信する方法を考えたりする。

コミュニケーションを行う力

笠縫東小学校区の方が有事の際に安心して避難所生活を過ごせるように、学習活動を通じて獲得した知識や考えをポスターやタブレットにまとめて、保護者や地域の方、他学年児童に発信する。

・本学習で変容を促すＥＳＤの価値観

世代内の公正を重要視できる

地域の幼い子ども、高齢者、身体の不自由な方など、笠縫東小学校区で生活する誰もが有事の際に安心して避難所生活を過ごせるように自分たちにできることは何かを考えることが大切である。

人権・文化を尊重する

段ボールベッドや簡易トイレ、パーテーションなど数に限りがある中で、避難所生活におけるプライベートな空間の確保をどのように取り計らうのか、一人ひとりの人権が守られるように考えなければならない。

・達成が期待されるＳＤＧｓ

１１　持続可能な都市・まちづくり

１６　平和・公正

４．単元の評価規準

(ｱ)知識・技能	(ｲ)思考・判断・表現	(ｳ)主体的に学習に取り組む態度
①自然災害から生き延びるために必要な物品･行動など防災上の知識について理解している。 ②学んだり調べたりして獲得した知識を、言葉や図、写真等を用いてそれらを関連づけながらまとめる技能を身に付けている。	①自然災害の状況下で、自分や身の回りの人の命を守るためにできることは何かを課題と設定し、課題解決に向けて必要な情報を選択したり比較したり関連付けながら考えている。 ②体験したり聞いたりして獲得した知識をもとに、考えたことを体験コーナーや学習発表コーナーを通じて保護者や地域の方、他学年児童に発信している。	①災害を自分事として捉え、自分と地域とのつながりを意識しながら自分ができる防災について考えようとしている。 ②防災･減災について学んだことをポスターやタブレットにまとめて発信したり、意欲的に地域の方に関わったりしようとしている。

５．単元の指導計画（全１６時間）

学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
１「災害が起こった時、私たちに何ができるのか考えよう」（3h） 自然災害が自分たちの生活に与える影響について学び、防災についての学習課題を設定する。 ・自然災害によってライフラインが止まることを知り、今の自分たちの生活が当たり前ではないことに気付く。	○大阪ガスさんから、身の回りにあるものから紙食器や紙スリッパの作り方を学び、有事の際に「代用品を作ること」は自分にできることの一つであることに気付くようにする。 ○三井住友海上火災保険さんから、	イ① （思判表）

・笠縫東小学校が広域避難所であることを知り、防災について話し合い、学習課題を設定する。	自然災害（特に地震）の際に、建物内外の避難の方法について学び、有事の際に自助とともに共助が重要であることに気付き、学習課題を追究できるようにする。	
2「どうすれば（地域の方が）避難所生活を安心して過ごすことができるだろう」（6h） 笠縫東小学校で起こる災害や避難について調べ、避難所生活の苦労や工夫について話を聞き、自分にできることについて考えをまとめる。 ・笠縫東小学校で予想される災害について話し合い、校区の危険地区についてハザードマップをもとに確認する。 ・学校敷地内の防災備蓄倉庫の見学を行う。 ・避難所生活における被災者の困り感、求められた支援物資などについて話を聞く。	○草津市危機管理課の方から、防災備蓄倉庫についての説明を受け、段ボールベッドや簡易トイレの組み立て体験を行う。 ○自衛隊（自衛隊滋賀地方協力本部草津地域事務所）の方から、能登半島地震災害派遣時の苦労や被災者の困り感、避難所での工夫について話を聞き、自分にできることについて考えをまとめられるようにする。	ア① （知・技） ウ① （主体的）
3「避難所生活を体験してもらおう！」（7h） これまでの活動を振り返り、有事の際、避難所生活を安心して過ごすために、自分にできることをポスターやタブレットにまとめ、保護者や地域の方、他学年児童に発表する。 ・自分にできることをポスターやタブレットにまとめる。 ・東まつり（11/9 日※授業日）に、保護者、地域の方、他学年児童に防災・減災について学んだことを発信する。 ・防災教育を通じて、地域社会の一員として地域の方に関わりをもち、地域に対する愛着をもつ。	○様々な学習活動を通じて獲得した知識をもとに、自分にできることをポスターやタブレットにまとめられるように支援する。 ○避難所体験ブースを設営し、発表コーナー・体験コーナーを企画する。 ○有事の事態になっていなくてもこれまで自分たちの生活を地域の方が支え続けてこられたことに感謝の気持ちをもち、これから自分自身も地域を支える一人だということを意識できるようにする。	ア② （知・技） イ② （思・判・表） ウ② （主体的）